



△小津禮法

一 的の年定はふり有くふりあや  
 いしと何をも小的の教へ但付と  
 ちとあやれ揮あをいふくとして  
 村あや村あいの事いふるは  
 一村あいの教いふるは



# △小津禮法

一 的の事定はふ可直しく云ふか  
いと何れ小的の教は付と  
あつてあれ擽あを云くして  
村は対の事いよるは  
一 村もの事いよるは  
おまつ下小的の母よつ者從其  
時んれよつあつては  
答めり

一 礼をいよるは度を知る射  
たよつてあつては度と  
つては対の事いよるは  
礼ハ中助の付のめく中助を  
ふす也 陽作ハ小津村と  
て書るなり

一 礼の役人と津さときこの役  
人とあつては礼の役人の  
の方津さときこの役人  
あつては礼の役人と

一 日記の没人と津さしきこの没  
人と每人もきく日記の没人的  
の方津さしきこの没人から立た方  
五人ともみ大前方なり大後へ  
て向くは席よみ或は教皮或は毛  
體をよみしきし時より後志死  
すしきしなり

一 日記の津さしきこの没物津さしき  
射の日前の利

一 的をゆきしに再行と取合し  
逸的の目ありなり

一 教隊のよの常しき津さしき  
没人津さしきしにのりし  
はく角し二つは教つこの目き  
入部寸斗としてしき 協の法  
量ハめ常しき津さしき  
了

一 教隊のすはむす方斗物さ  
よのつぬの香ちしきしき  
かやし但行りしきしき  
村のしき人しきしき津さしき



一 教律と公卿又いそ打山くこと  
ふらうしとくしし入金教塚のさ  
くおく金さうり亦たくおん紙  
うしれうしものせとくあもせ  
黒白お格よまらうし入物しう  
しおとけて入金お方の教つこの  
例いおくしうらうしよふの紙佐  
しう及海い入物しうふしとよ  
し記方いおく會

一 下村時志極神うまは上矢下矢  
細合れさうしう及村もた一同し  
一 ちうまし村もくまうのう村も  
教もよまうしうま本席あり  
時ハ二うましとらふもし下村あり  
一 ちうまし村も海い矢代と細合  
一 ちあきしう下張うましとらうま  
おま付い矢代とら合者志  
ことしと張し

一 矢代とまきき教付終はさ  
くつしうしう終あう村も事し  
らうましとらう張うし村も

一 大代とてききく射射終らさる  
くついでしに終るに射の業を  
らしく又つてくは振うて射る  
半とてしに射の業はあはれ  
し小津の園的らとに極むお  
の照合の務負ふ及むる事  
ときとてしに射の務負ふに  
之のまはれとめしを備へし  
為斗く射死すに射的よふ可  
きなり

一 射の業を射る各園を取  
らしてしに射の業はあはれ  
とてしに射の業はあはれ  
は射の業を射る各園を取  
宛ててしに射の業はあはれ  
とてしに射の業はあはれ  
とてしに射の業はあはれ  
とてしに射の業はあはれ  
とてしに射の業はあはれ

一 園の振やうたしに園の割ぬ  
るとしてしに射の業はあはれ  
ます或る斗廣サさるなり

一園の振やうたゞしむ園割ぬ  
るとして二つある處のす法長サ  
ます式方斗廣サさうより  
他七八方もすし一存サ三方  
をるしあも鹿細く竹ぶく作  
角一板一本一に二あるさ  
二つ一に二つあるをいふに村の  
と振入もさういふを十かこの  
さうしつらさうある村の振入  
の園之後むし振入を一分振入と  
さうさうはむ振入にすさうさ  
しむしむ振入と振入すし  
むしむ振入とむしむ振入  
むしむ振入とむしむ振入  
のらむむしむのはむむむむ  
後者のこむしむ

一的の方う振入をむしむ振入  
定らむむの方の振入をむむむ  
とさうしむ

一的の中むむむむむむむむ  
射入とむむむむむむむむむ

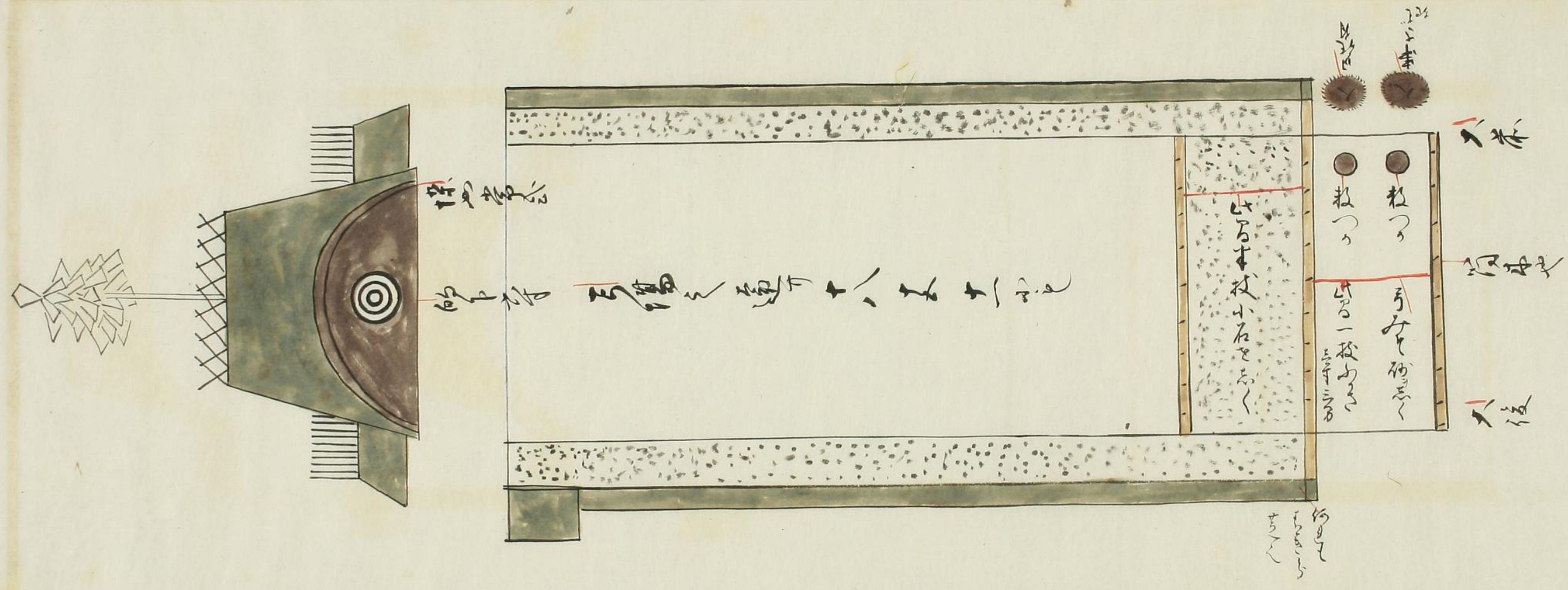








一採りては小の場は其の場の都合



引場之図

二人前也



一ノ目 二ノ目 三ノ目 四ノ目 五ノ目 六ノ目 七ノ目 八ノ目 九ノ目 十ノ目

此乃本枝小石を志く



教つ

此乃一技を志く



教つ

此乃中絶を志く



此乃



此乃

不<sub>レ</sub>茶

不<sub>レ</sub>中絶

不<sub>レ</sub>後

# 弓場之巻

二人前也

此乃中絶を志くは射の終始を志す

此乃





保中書

師中書

保中書 師中書 保中書 師中書

保中書 師中書

保中書

師中書

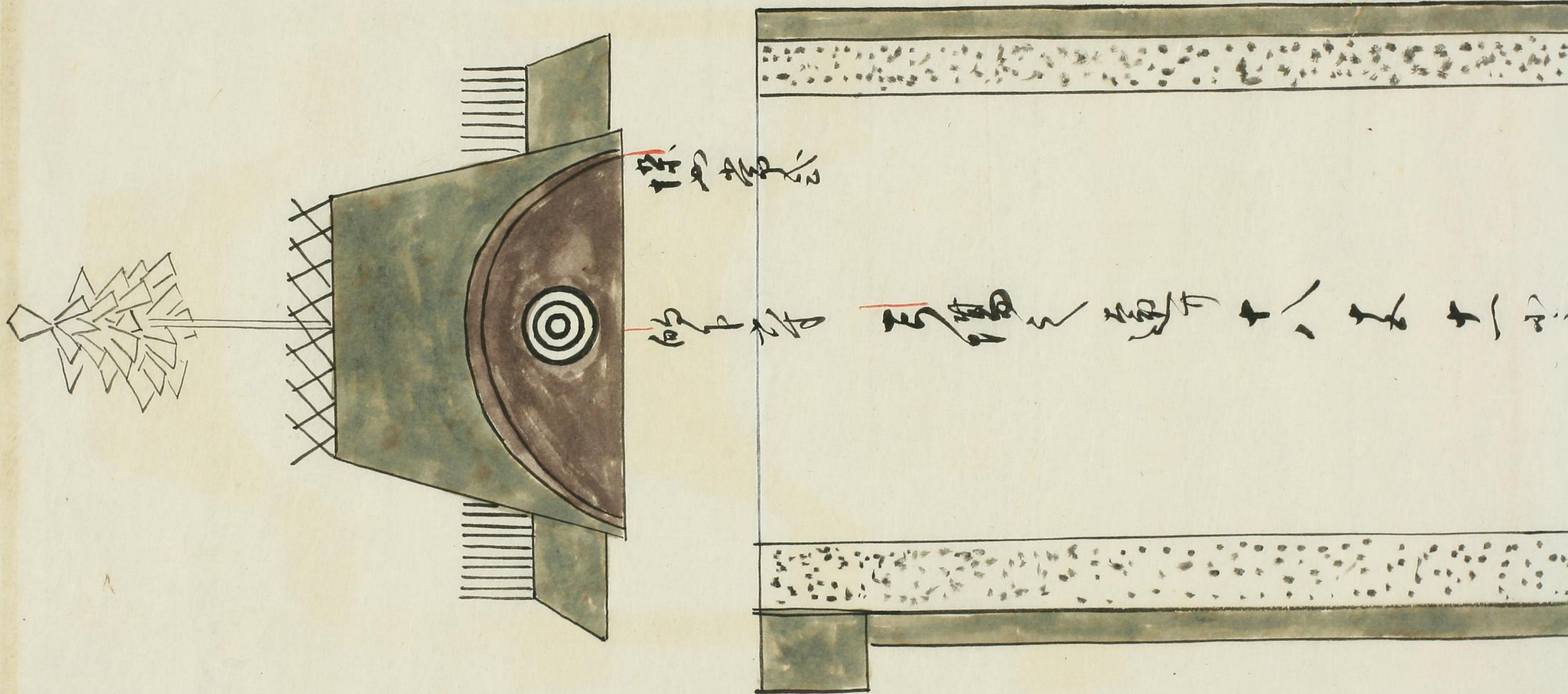
保中書

師中書

保中書 師中書



一 塚乃るる小の場は其のち場の極石



一 操乃る可小の場は其の場の悟合  
何とて法をすまはる主の物と記  
此中より極子よりくくへし定法  
いふこといふこといふこといふこと  
習ふるあはれいふこといふこと  
悟合よりいふこといふこと  
取實とすもや 満中はいふこと  
了すこと

右小串の法流よりいふこと  
此種より同於南流唐園院教  
義満の軍中時代より代々將軍家  
より法家お續く秘書ありある  
取河より記也門流より村人  
師傳よりいふこといふこと  
寸深著より秘すこといふこと

以上記法を同條

右記一考小串より法流唐園院

以上諸條皆同條

右此一書小半之流在於中流  
最上之雜為雜文於宋代思味  
之子然若之為可為之具記也  
能令雖乃親子兄弟射術而德  
之筆亦不可傳受市人讀則被  
是誠也如作

弘治元年

八月日 信豐之 田

右此一書武田流小半之禮法  
唯授在人雜為雜書之流也  
同信之令相續之畢從制  
之旨每君子於世之者可為進  
之者也仍如作



之者也仍如伴  
之旨無子於世之者可也必進

糟屋左近

武成  
園

海野仁左衛門

景亮  
西

久代藤兵衛

信秀  
丑

山村主鈴

喜時  
也

山村五鈴

喜時

1 萬 〇 千 〇 百 〇 十 〇 九 〇 八 〇 七 〇 六 〇 五 〇 四 〇 三 〇 二 〇 一 〇

△ 子 孫 萬 年

小 車 經 行

